

小学生高学年向け 家庭科プログラム

健康と環境によい住まい方



対 象 小学校5～6年生

関連する教科 家庭科
「快適な住まい方」

ねらい

- ・快適に住まい続けるためには、「健康」と「環境」のことを考えた工夫があることを知り、自然の力を生かした工夫を理解する。
- ・快適に過ごすため、自然の力を生かした住まい方を実践する意欲をもつ。

LIXILでは、世界中の誰もが、健康的に安心して暮らすことができ、資源やエネルギーを使いすぎない「住まいづくり」をめざしています。

本プログラムは、住まいや住まい方について、家の模型を使用した実験や体験などをもとに、自然の力を生かした工夫を理解し、「健康」と「環境」という新たな視点で、自分にできることを考えます。

指導案
45分
×
2コマ

1時間目

●家や快適な住まいについて興味をもつ(10分)

世界の家を例に、家にはさまざまな工夫があることを確認します。

●快適な住まい方をするために必要な視点を 得る(35分)

【健康によい住まい方】

熱中症とヒートショックを例に、家の温度が健康や命に関わることを知り、快適な温度を保つ住まい方の大切さを学びます。

【環境によい住まい方】

地球温暖化と電気の使い方には関わりがあることを知り、電気を使いすぎない住まい方の大切さを学びます。

ワーク:電気を使わずに、快適に過ごすための工夫を考えよう
電気を使わずに快適に過ごすための住まい方の工夫をペアで考えます。

2時間目

●季節に応じた自然の力を生かした快適な住まいについて知り、効果を体感する(35分)

空気の状態を確認し、暑い季節と寒い季節それぞれの自然の力を生かした工夫を考えます。

実験:空気の動きを利用するための工夫

通風

どこの窓を開けると効果的に空気の動きを利用することができるのか、実験キットを使用してグループで考えます。

映像視聴:空気の動きを創るための工夫

創風

空気の状態を利用して、空気の動きを創ることができることを映像で確認します。

体験:空気を暖かく保つための工夫

断熱

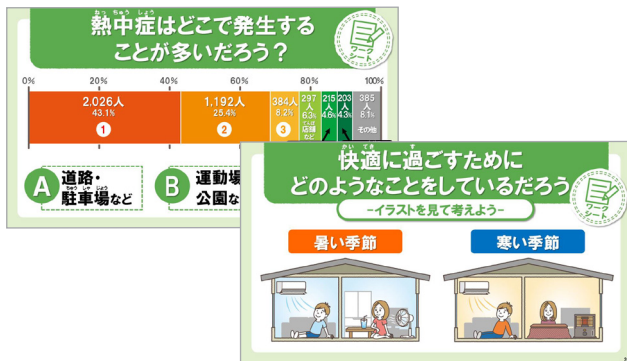
体験ボックスを使用して、暖かい空気から冷たい空気をさえぎる工夫による効果を実感します。

●LIXILからのメッセージ(10分)

LIXILのもののづくりに対する思いや、快適に住まい続けるためには健康と環境によい暮らしが大切であるというメッセージを伝えます。

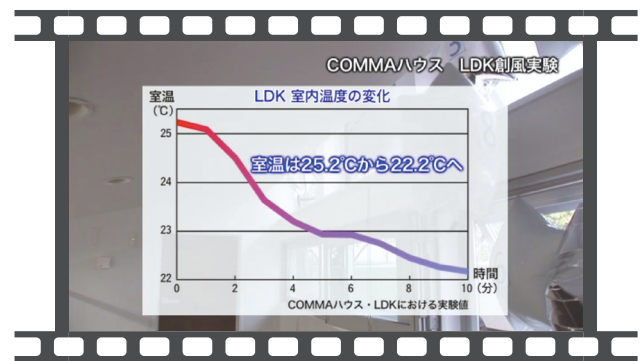
授業教材

スライド



健康問題や環境問題に関するクイズなどを通して、快適な住まい方の実践のためには、健康と環境の両方の視点が不可欠であることを学びます。

映像



室内に浮かぶ風船の動きを観察し、高い窓と低い窓を開けることで、空気の性質を利用して、空気の動きを創ることができる(創風の工夫)ことを確認します。

実験



家全体を1つの部屋ととらえ、空気の入口と出口をつくることで、効果的に空気の動きを利用することができる(通風の工夫)ことを実感します。

体験



カーテンなどを利用して、空気の層をつくること(断熱の工夫)で、家の中の空気を暖かく保つことができることを体感します。

※教材の内容は一部変更となる場合がございます。

授業を受けた子どもの感想

- 電気をこまめに消すことや、カーテンの開け閉めなどが、だんだん何気なくやっていると思っていたことが、大きな意味(理由)をきちんと持っていることが分かったから。
- 空気(風)の動きの実験では、どれかの窓を開けるかにより、すずしさが全く違うことが分かりました。とても楽しかったです。ありがとうございました。
- 実験を行ったため、楽しかったし、目でも確認できた。また、自然の力を生かせば快適に過ごせることも知ることができた。
- 空気(風)は入口と出口がないといひかないことが分かりました。今、寒い冬は日中カーテンを開けたら色々工夫できることがたくさんありました。夏も工夫できることがあったので、今年こそ窓を開けたりしてみたいと思います。

先生の感想

- 実験があることで児童自身が考え、いろいろな条件を比較しながら空気の出入口について考えることができた。学習内容を体感することができ、効果的であった。来年もぜひ実施したい。
- 講師が児童の意見を引き出してくれていたため、自由な発言が積極的にできていた。
- 持続可能な社会の構築に向けて、会社がどんなことに取り組んでいるのか、どんな理念をもって講師がその仕事をしているのかについて知る機会にもなった。